

# 航空インフラ革命

～空港と管制のベストミックス～



- 訪日外国人旅行者の9割以上が航空機を利用して訪日するため、「明日の日本を支える観光ビジョン」における「訪日外国人旅行者数 2020年 4,000万人、2030年 6,000万人」の目標達成のためには、航空交通量の処理能力拡大が重要な課題。
- 滑走路の延長・増設などハード面のみならず、飛行経路や管制運用方式の見直し、管制空域の再編などソフト面も組み合わせ、航空交通量の増大に対応。

## 空港処理能力(発着枠)の拡大

### <羽田空港>

- ・飛行経路の見直し等により、2020年までに国際線の発着枠(昼間時間帯)を年約6万回から年約10万回(+約4万回(1日約50便))に拡大



- 経済波及効果 約6,500億円(年間)
- 税収増加 約530億円(年間)
- 雇用増加 約5万人(年間)

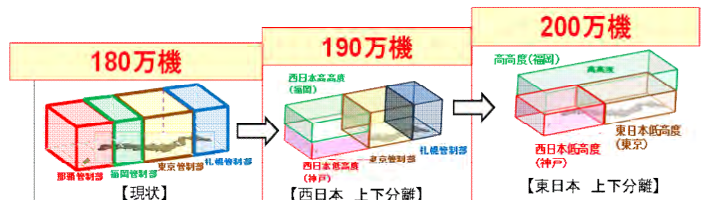
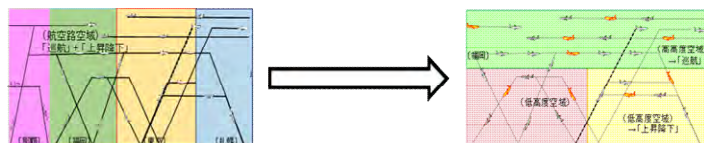
### <新千歳空港>

- ・2016年冬ダイヤより、外国航空機の乗り入れを大幅に拡大(運航可能日及び時間帯の拡大)
- ・2017年夏ダイヤより、1時間当たりの発着枠を32回から42回へ拡大

## 管制処理容量の拡大

### <管制空域>

- ・国内管制空域を、巡航が中心となる「高高度」と近距離及び空港周辺の上昇降下に専念する「低高度」とに上下分離し、管制処理の効率性向上等を図ることで管制取扱可能機数の増加を実現  
(2025年時点:現状+20万機)
- ・2017年度より、西日本の低高度空域の管制を担う神戸管制部の設立準備室を設置するなど業務実施体制の整備を開始



2022年(H34)4月~

2025年(H37)4月~